

## 人それぞれの個性

中 二

私は、みんなと違うところが一つあります。それは、「足の指」です。足の指の形がみんなと違うのです。私はこの指が原因で、とても悲しい思いをしたことがあります。それは小学校二年生のことです。

ある日、私の指を見た友人に、  
「なに、その指。そんな指だと死んじゃうんだよ。テレビでやってたんだよ。」

と言われたのです。そのとき私は、  
「こんな指してると死んじゃうの？何でこんな足で産まれてきちゃったんだろう。」

と不安になりました。そして家に帰って泣きながら母に

「何でこんなふうに産んだの？私、死んじゃうの？」

と詰め寄りました。そのとき母は私を抱きしめこう言いました。

「ごめんね。大丈夫だよ。死んだりしないよ。」

私はその時小学校二年生で、その後どうしたのか覚えていません。しかし、今思うのは「なんであの時、母を責めてしまったのだろう。」という後悔です。指の形が変わっているのは誰のせいでもありません。もちろん母のせいでもありません。それなのに私は、母を責めてしまいました。傷付いた悲しい気持ちを母にぶつけることしかできなかったのです。

それから自分が成長していくにつれて「みんな人それぞれの個性があつて良い。」と今では思います。しかし、そのときは、私の心のどこかで「足の指を見られるのははずかしい。また何か言われたらどうしよう。」という不安な気持ちをずっと引きずっていたのです。

そんな私に転機が訪れました。あのことがあつてからずっと隠し続けていた指のことをクラスメイトに打ち明けることにしたのです。小学校五年生では、夏に林間学校という宿泊学習があり、秋には運動会ではだしになる機会もあつたからです。母と担任の先生とも相談しました。たくさん悩み

ました。また二年生のときのようになら、  
という思いが何度も頭をよぎりました。そして悩  
んだ結果、このことをみんなに伝えてもらえるよ  
うに担任の先生にお願いをしました。

「Aさんは、足の指がみんなと少しだけ違います。  
それでもみんなと何も変わらないですよ。」

と先生はクラスのみんなに伝えてくれました。み  
んなは少しびびったりした様子でしたが、そのあと  
友人やクラスメイトのみんなは普通にいつも通り  
接してくれました。私は不安な気持ちが少し楽に  
なった気がしました。

その後、友人から、

「私も生まれつき、ここがこうなんだよ。」

と打ち明けられて思ったのです。

「ああ、みんなそれぞれ違うけどみんなもいろん  
な悩みや不安をもっているんだ。」

この経験から私はいくつかのことを学びました。  
人にされて嫌なことは自分でもしないこと。お互  
いの個性を認め合うこと。この世の中にはいろい  
ろな個性があります。金子みすずさんの「私と小  
鳥と鈴と」という詩には「みんなちがってみんな

いい」という一節があります。私はその言葉が好  
きです。みんなそれぞれ違うけれどもみんなそれ  
ぞれの個性があつて良いということだと思います。  
世の中の人が、みんなそれぞれの個性を認め  
合えば、傷つく人は少なくなるのではないでしょ  
うか。

学校生活でも個性を認め合えず、傷付き傷付け  
られている人がいます。遊び半分で言った言葉も  
いついじめになってしまふのか、言った本人はわ  
からないかもしれません。ちよつとした遊び半分  
で発した言葉でも、言われた相手がこの言葉に傷  
付きいじめだと思えば、それはいじめになります。  
傷付いた心はその言われた本人にしかわからない  
のです。

私は、小学校二年生のとき言われた言葉で深く  
傷付き、今でも忘れることはできません。

しかし、私は、この経験があつたから強くなれ  
たところもあると思います。それまでは、嫌なこ  
とがあつても、うじうじと一人で悩んでいるだけ  
でした。これからは嫌なことは嫌だと、自分の意  
志をしっかりと伝えられるような人間になりたいで

す。そして、自分の体験を生かし、差別やいじめをなくして、みんなが個性を認め合える社会をつくれればいいなと思います。